

がんを防ごう

全道の患者ら60人 悩み、要望話し合う

札幌で交流会

道内21のがん患者会などをつくる、北海道がん患者連絡会(世話人代表・加藤秀則北海道がんセンター院長)は2月28日、第5回北海道がん患者交流会を、北海道がんセンター(札幌)で開いた。

全道からがん患者とその家族ら約60人が参加。前半の講演では、患者連絡会の要望に応え、札幌榎心会病院の晴山雅人・放射線治療センター長が陽子線治療について話した。

晴山センター長は「従来(の)



患者らが互いの悩みなどを話し合った
「第5回北海道がん患者交流会」

ックス線では)治療できなかったがんが治せるようになった。しかし、治療施設の建設費が高額で、治療費も高くなる」と話し、保険適用や先進医療の対象になるがんもあるが、他の多くのがんは自由診療になるという現状の課題を指

摘した。

後半は、参加者がグループに分かれて「今、がん患者たちが困っていること、望むこと」を話し合い、発表した。治療の選択や治療後の後遺症、定期的な検査といったさまざまな悩みや不安、日々の暮らしや就労への支援などの要望や意見がたくさん上がった。

同連絡会は患者の声をまとめて共有するほか、必要な機関に向けて患者本位のがん対策の実現を図る。

交流会に先立って開かれた同連絡会の役員会では、今年で3回目となる「北海道がんサミット」について話し合い、大まかな開催内容案を固めた。今月26日に開く、北海道がん対策「六位一体」協議会で提案する方針。サミットに向けて動き出すことになる。